

3月10日(月)から26日(水)までの会
期で、平成9年黒崎町議会第1回
(3月)定例会が開会されました。
開会初日には、町長の施政方針
が行われましたので、その要旨を
紹介します。

町長施政方針

(要旨)

平成8年度の国内経済は、小刻みな変動を繰り返しつつも、穏やかな景気回復が続いており、回復の牽引力が、公共投資や住宅投資といった政策需要主導型から設備投資が次第に堅調さを増していく民間需要主導型へと移行しております。しかしながら、新年度の地方財政は極めて厳しい現状にあり、各地方公共団体においても地方財政の健全化、行財政改革の推進が現下の、最重要課題であると考えられております。当町におきましても、平成8年度末町債残高が70億1500万円を超える見込みであり非常に厳しい状況であります。国・県との連携を保ちつつ、財政の運営に支障が生じることのないよう努めてまいり所存であります。さて、私は2月13日に就任してから、早一ヶ月になろうとしております。今日まで町民の多くの方々と議論を重ねる中で、黒崎町を少しでも住みよい活力ある町にと、清新な町政の実現をモットーに教育・文化・スポーツ活動の振興、福祉行政の充実、生活環境の整備、農・商・

工業の振興を公約として訴えて参りました。

新湯市との合併問題につきましては、「新湯市・黒崎町合併問題協議会」において、行政制度の統一案については協議が尽くされ、残された行政制度も数項目となっており、新年度は、合併後の町づくりのビジョンとなり、合併後の町づくりのビジョンについて協議を行い、同協議会において合意を得られました計画案をもって、住民説明会等の開催及び広報等で周知を図るなどして、住民の理解と合意形成を図りながら、慎重に進めて参りたいと考えております。

水と緑を愛する環境重視のまち
公園・緑地は、住民の心にやすらぎを与え、憩いの場として重要であり、県営水環境整備事業「黒鳥地区」につきましても、親水農村公園的な景観と創造を盛り込んだ事業採択に向け、準備を進めていく所存であります。

安心していきいきと暮らせる 健康と福祉のまち

保健衛生につきましては、保健センターを中心に町民の健康づくり、健康診査など実効ある保健事業を積極的に推進いたし、健康づくりとして、「自分の健康は自分でまもる」をモットーに健康まつりの開催や、保健衛生だより、健康カレンダーの作成配布等を行い、健康に関する意識の高揚を図り、更に、新年度から幼児の医療費助成を行い、町民の健康づくりに努めてまいります。

住民の豊かな英知が光る 生涯学習のまち

心身ともに健全で情操豊かな思いやりのある青少年の育成のために、教育に対するハード及びソフト面の整備充実を積極的に進めてまいり所存であります。

学校教育では、山田小学校屋内運動場の改築を行い、学校体育施設の整備を図るとともに、クラブハウスの整備、防災倉庫の設置及び前庭の整備などを行い地域の学校としての整備充実も合わせて図ってまいります。

社会教育につきましては、生涯学習の推進を重点施策として、各種の学級講座を開設し、学習の機会を広げ、町民が一人でも多く参加できるよう事業の拡充強化を図ってまいります。

社会体育事業については、町民だれもが気軽にスポーツ活動に参加し、スポーツ・レクリエーションを通じて人間形成に資するよう努力してまいり所存であり、そのため、幼少期から高齢期まで生涯スポーツ推進の目標と方向を定めその振興に努めるため、社会体育の総合計画の策定に向けて努力してまいります。

明日へのメッセージを発信する 活力と創造のまち

農業をめぐる情勢は、米のミニマム・アクセスの実施や新食糧法の施行など大きく変わりつつあり、産業構造が変化する中で非常に厳しい状況となっております。当町におきましても、社会情勢の変



担い手対策につきましては、普及指導活動事業として西蒲原農業担い手研修会やさわやかアグリレイ育成などの支援活動を始め、認定農家の農業簿記研修を計画いたしております。また、魅力ある

化と都市近郊における立地条件の変化に対応できる地域農業の再編を目指すとともに、魅力ある農業など必要でありま

新湯都市圏の「心」にふさわしい 舞台装置充実のまち

都市計画については、都市の動向を的確に把握するため、都市計画法第6条に基づき、都市計画基礎調査及び線引き見直し調査を実施いたすこととしております。

道路整備につきましては、町道鳥原寺地線、町道須上線の2路線について、補助と地方特定道路事業の組み入れ、また、河川公園線(仮称)については、地方特定道路事業としてそれぞれ整備を進める所存であります。

黒崎南インター構想につきましては、実施した基礎調査策定業務委託に引き続き、開発構想及びインターチェンジの基本的な課題を抽出、検討するため、基本調査(その2)策定業務委託をいたし、関係機関のご指導をいただきながら構想実現に向け努力をいたす所存であります。

町の話

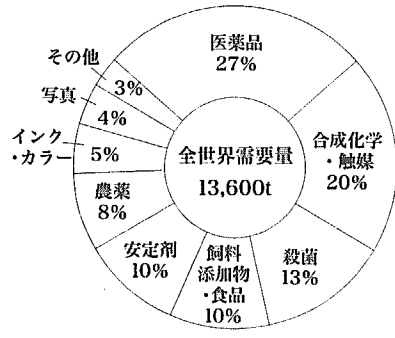
皆さんの足元から
うがい薬が



ヨウ素とは
かぜを引いた時の「うがい薬(イソジン)」で茶色の液体の中に消毒剤として、ヨウ素が含まれているのをご存じですか。

ヨウ素は、固体で金属光沢をもつ黒紫色の結晶で、用途はレントゲン造影剤、殺菌剤、医薬品、動物の飼料添加物(ヨード卵)、ハイテク産業、食品など多方面で利用されています。また、人間の生存・成長には不可欠な元素で、欠乏すると甲状腺がはれたり、バセドー氏病などにかかります。

ヨウ素の用途 (1989年業界調べ)



日本は、海に囲まれていてヨウ素含有の豊富な海藻を摂っているため、欠乏することはありませんが、大陸の内陸部では欠乏症が多く発生しています。欧米や

アジアの内陸部では、ヨウ素不足を防ぐため、食卓塩にヨウ素化合物を加えているところもあります。

黒崎の産出量は世界の3%

ヨウ素の生産地は世界的に見ても少なく、チリ43%、日本38%、その他で生産しています。この貴重な資源供給の3%(約500t/年)を担っているのが、地元黒鳥の東邦天然ガス(株)で、製品のほとんどは輸出しています。主な輸出先はカナダ、イタリア、イギリスです。新潟県では、他に中条町のジャパンエナジー(株)が生産しています。



ヨウ素の製造方法

黒崎のヨウ素の製造は昭和46年から開始されました。東邦天然ガス(株)では、水溶性の天然ガスを地下約1,000mから汲み上げ、ガスを分離した後の水(資源採取後は地下に戻されます)に含まれているヨウ素を大きな装置で、濃縮後、結晶化し、精製してヨウ素を製品として